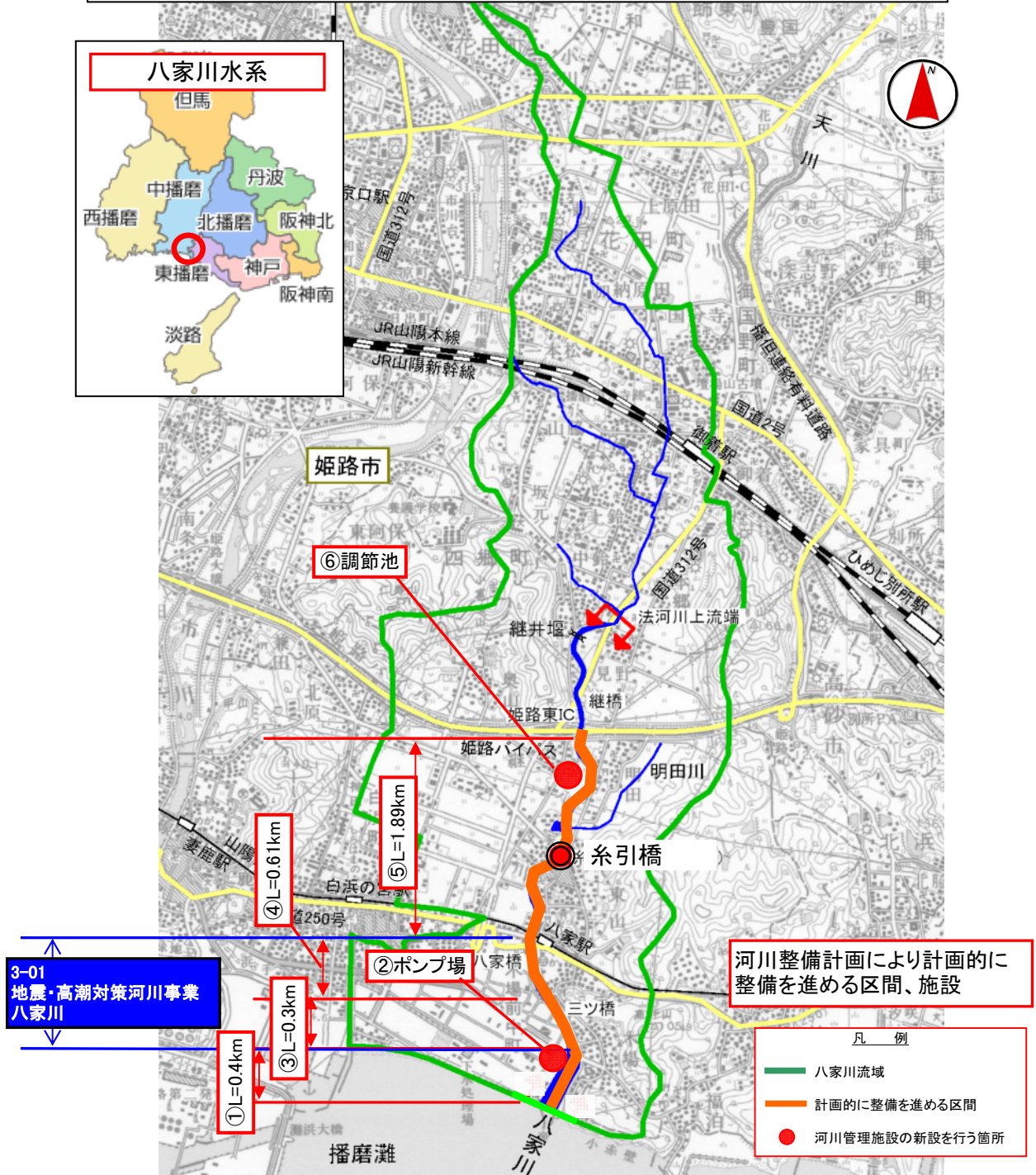


### 3. 八家川水系 河川整備計画

### 3. 八家川水系 河川整備計画 全体位置図



#### 河川整備計画の概要

策定年度	平成24年度				
対象河川	八家川水系流域内の全ての法河川(流域面積:12.8km <sup>2</sup> )				
整備目標流量	糸引橋地点 70m <sup>3</sup> /s(昭和40年9月洪水規模<戦後最大>)				
整備区間	河川名	No	整備区間	延長	備考
	八家川	①	河口～防潮水門	0.40km	未着手
		②	高水敷下流端(防潮水門、ポンプ場の整備)	—	事業中
		③	防潮水門～三ツ橋	0.30km	事業中
		④	三ツ橋～山陽電鉄	0.61km	事業中
		⑤	三ツ橋～姫路バイパス	1.89km	未着手
⑥		明田川合流地点～姫路バイパス(洪水調節施設の整備)	—	未着手	
対象期間	平成24年から概ね30年				

3-01

### 【3-01 二級河川 八家川 地震・高潮対策河川事業】

[従前] 従前の事業評価区間での比較

	現計画	H22 中間報告時点
事業採択年度	昭和 43 年度	昭和 43 年度
完成予定年度	平成 33 年度	平成 33 年度
総事業費	71 億円	71 億円
整備延長	910m	910m
整備区間	姫路市木場～八家	

[今後] 河川整備計画に位置付けられた、今後の事業評価区間での比較

	現計画	H22 中間報告時点
河川整備計画策定年度 (事業採択年度)	平成 24 年度	平成 24 年度
完成予定年度	平成 33 年度	平成 33 年度
総事業費	61 億円	61 億円
整備延長	910m	910m
整備区間	姫路市木場～八家	

#### 事業概要図



— : 今後の事業評価区間 (河川整備計画区間)

#### 事業変遷

昭和 40 年 : 9 月洪水・高潮 (浸水家屋 270 戸)  
 昭和 43 : 高潮対策事業着手 (L=910m 姫路市木場～八家 )  
 平成 2 年 : 9 月洪水 (浸水家屋 388 戸)  
 平成 10 年 : 事業評価 (再評価)  
 平成 13 年 : 事業評価 (再評価 : 休止)  
 平成 16 年 : 8 月高潮 (浸水家屋 201 戸)  
           9 月高潮 (浸水家屋 29 戸)  
 平成 17 年 : 事業評価 (再評価 : 再開)  
 平成 21 年 : 八家川水系河川整備基本方針策定  
 平成 22 年 : 八家川水系河川整備計画策定中間報告  
 平成 24 年 : 八家川水系河川整備計画策定  
           八家川水系河川整備計画策定完了報告 (再評価)

## 河川整備計画策定報告【3-01】

部課室名	県土整備部土木局 総合治水課 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	総合治水課 山内 良太 河川整備課 松本 正利 (課長補佐兼計画係長 恒藤 博文) (都市河川係長 山本 良太郎)	内線	4426 4408 (4431) (4417)
------	----------------------------	---------------------	--	----	----------------------------------

河川整備計画名	八家川水系河川整備計画				
河川整備計画の策定経緯	平成 21 年 1 月 13 日 河川整備基本方針策定 ○河川整備計画検討委員会(第1回~第7回) 平成 17 年 9 月 8 日~平成 23 年 3 月 5 日 ○河川整備計画策定 平成 24 年 7 月 18 日				

河川整備計画と事業評価の関係	採択	~H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
	S43	H10 再評価 ○	再評価 ○	(休止)		委員会立ち上げ 再評価(再開) ○						中間報告 ○		河川整備計画策定 ◎報告

河川整備計画検討委員会の主な意見	対応等
・高潮対策だけでなく、洪水対策にも効果がある計画なのか。	・洪水対策は、戦後最大である昭和 40 年 9 月台風 23 号と同等規模の洪水に対応する計画規模として、必要な河積の拡大、洪水調節施設を整備する。
・住民意見が十分反映できる整備計画にして欲しい。	・住民が積極的に川づくりに参加できる体制づくりや、住民が主体となった水防体制づくりの支援に努める。

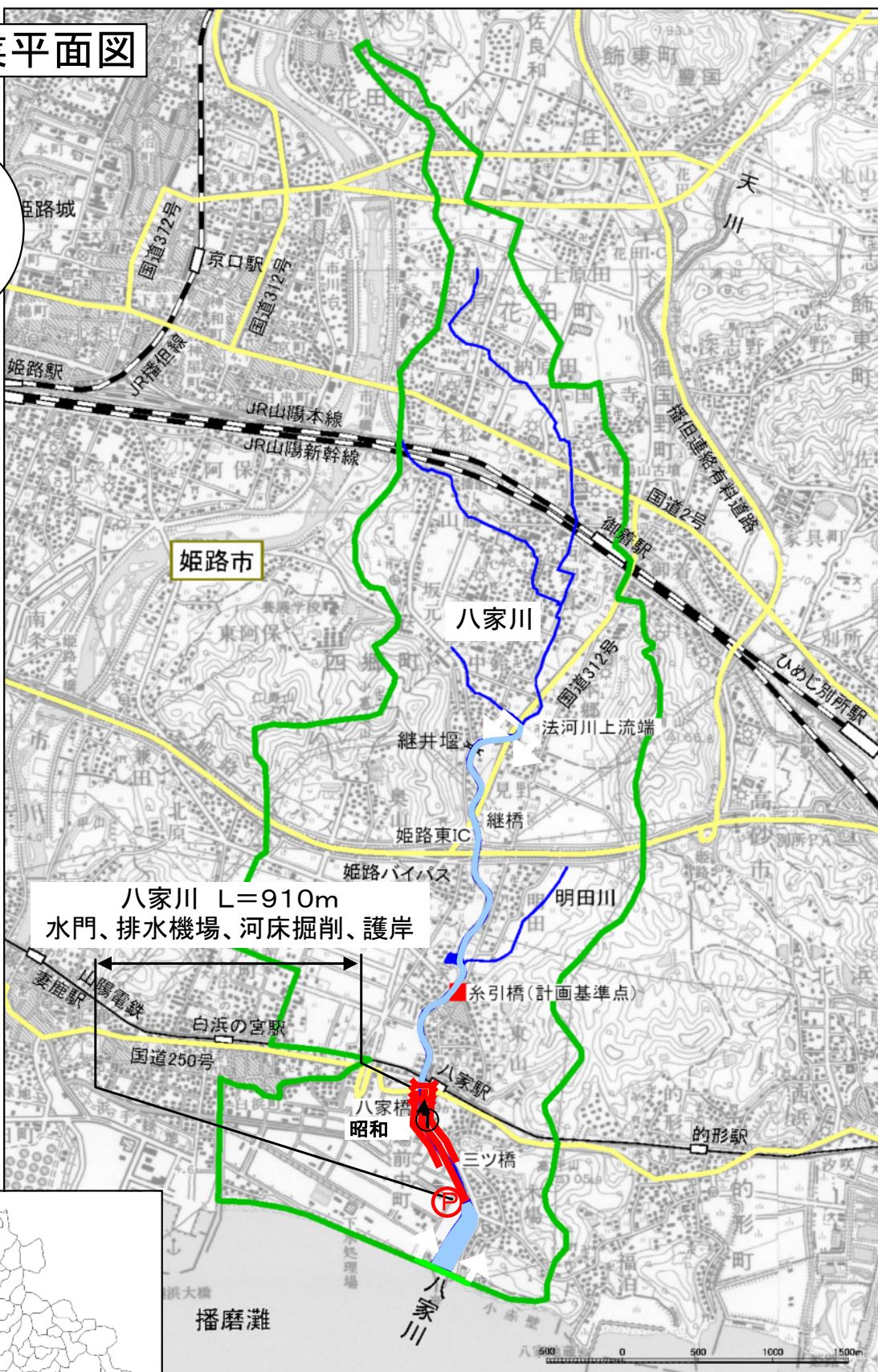
事業種目	河川事業	新規評価年度	—		現 計 画 <sup>※1</sup>	前 回 (H22) <sup>※2</sup>	
事業名	二級河川八家川 地震・高潮対策河川事業	河川整備計画策定年度 (事業採択年度) 着工年度	H24		総事業費	61億円	61億円
					内用地補償費	4億円	1億円
事業区間	姫路市木場~八家	再評価年度	—		完成予定年度	H33	H33
所在地	姫路市木場~八家				進捗率 (内用地進捗率)	17% (100%)	0% (0%)
					残事業費	51億円	61億円

事業の目的	事業内容		
当該地域は昭和39年、昭和40年と連年にわたって甚大な高潮被害を受けた。さらに、平成16年度には台風16号及び台風18号により二度にわたる甚大な高潮被害が発生した。 このため、高潮対策事業により当該地域の浸水被害を防止し、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。		現 計 画	前 回 (H22)
	計画流量	70m <sup>3</sup> /s (基準点：糸引橋)	70m <sup>3</sup> /s (基準点：糸引橋)
	整備延長 主要工種	910m 防潮堤330m、掘削、護岸、 道路橋2橋、防潮水門1基、 排水機場1基	910m 防潮堤330m、掘削、護岸、 道路橋2橋、防潮水門1 基、排水機場1基
〔負担割合 国 1/2、県 1/2〕			

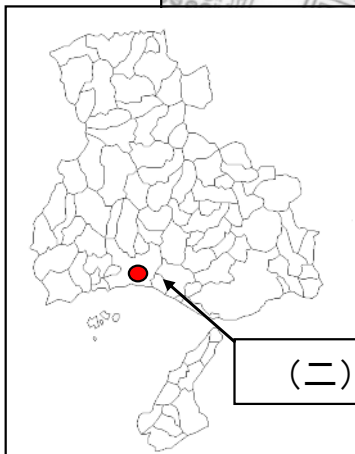
<b>【前回中間報告時点からの事業計画の変更概要】</b>	
①河川整備計画の策定に伴い、河川整備計画にあわせ事業費の内訳等を見直した。	
(1) 必要性	①昭和39年、昭和40年と甚大な高潮被害が発生している。近年では、平成16年度の台風16号(浸水面積12.7ha、床上32戸、床下169戸)及び台風18号(浸水面積1.8ha、床上1戸、床下28戸)により、二度の高潮被害が発生しており、再度災害防止のため、継続的に事業を実施する必要がある。 ②姫路市密集市街地、山陽電鉄、国道250号等を高潮被害から防御するため、当該事業により早期に治水安全度を向上させ、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する必要がある。
(2) 有効性・効率性	①費用便益比：B/C=5.3 ②河道整備よりも短期間で整備可能な排水機場整備を先行することにより、効率的に事業を実施する。
(3) 環境適合性	①防潮水門及び排水機場を住宅地から離れた下流に建設することで、住環境に配慮した施設配置計画としている。
(4) 優先性	①平成16年度、高潮により被害を受けたのは姫路市内では八家川のみであり、姫路市密集市街地、山陽電鉄、国道250号等を高潮被害から防御する当該事業の優先性は高い。
対応方針	策定された河川整備計画に基づき、事業の早期完了に向け、事業推進を図る。

※1：策定までに整備済みとなった部分を含む。  
※2：前回の中間報告時の内容を河川整備計画区間で置き換えた値。

# 事業平面図



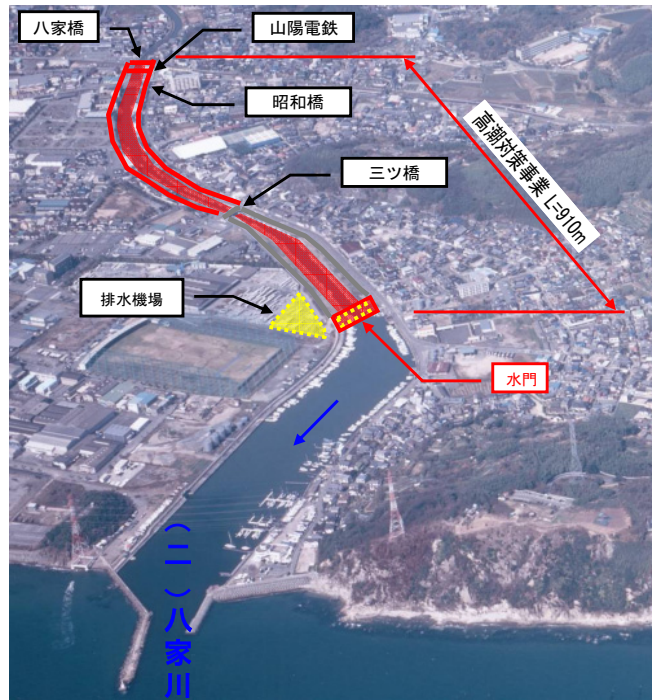
八家川 L=910m  
水門、排水機場、河床掘削、護岸



(二) 八家川

- 凡例
- 橋梁
  - H24迄に完成箇所
  - H25以降に実施予定箇所

### 整備中区間(水門)



### 未整備区間(昭和橋下流)



### 標準断面図(糸引橋上流地点)

